

こんにちは

会社訪問記

リサイクル技術で省資源・ 環境保全を推進

たいりゅう

大有建設株式会社(名古屋市中区)

再生コンクリート、再生アスファルトなどリサイクル技術ではトップクラス、という大有建設株式会社に伺い、事業内容、今後の展望等を吉兼常務取締役にお話をいただきました。

——まず、創業されたのはいつ頃ですか。

吉兼常務取締役(以下吉兼に略)『昭和3年に川中組としてスタートいたしました。』

——事業内容を教えてください。

吉兼「総合建設業ですが道路舗装は得意な分野で、その他アスファルト合材、生コンクリートの製造販売も行っています。産業廃棄物の再資源化技術の開発も随分以前から取り組み、実用化、事業化を行ってきております。



吉兼常務取締役

本誌には再生に関する話題が相応しいかと思しますので再生事業を中心にお話しします。なかでもセメントコンクリート塊やアスファルトコンクリート塊の再生材の製造販売や、それをを用いた舗装では、わが国でのパイオニアとしての実績に誇りをもっております。」

——いつ頃から取り組まれたのですか。

吉兼「再生事業に最初に取り組んだのが山砂利プラントの廃泥で、昭和42年から乾燥粘土を三河地方の三州瓦の原料として供給をはじめたのです。現在でも月間7000トン前後の出荷を続けています。セメコン塊やアスコン塊の本格的な再生プラントが昭和53年、再生舗装に関する指針が制定されたのが昭和57年、随分前にスタートしているんですよ。更に、生コンスラッジ水の練混ぜ水への再利用もわが社が世界ではじめて提唱した技術で、生コンの



JIS規格にも取り込まれ、他に掘削残土の再生プラントを始め各種再生プラントの設計製作を……』
——技術の蓄積がないとできないことばかりですね。

吉兼『特許が30数件、国際特許も3件取得しています。昭和53年には(財)クリーン・ジャパン・センターの再資源化貢献企業の表彰もいただいています。』

——今後の展望を教えてください。

吉兼『建設以外の分野から出る廃棄物を、どう建設と結び付けていくか、が今後のテーマです。これからのリサイクルにとっていえることは、廃棄物を単に高温処理する方法を見直さねばいけない。そのような資源の再生方法は、さらに大量な燃料を消費するだけではないか、と。いくらリサイクルができて、そのために大量な熱エネルギーがCO₂に変わっていたのでは、リサイクルしているのか地球環境を破壊しているのかわからないですから。もっともっと研究していかなければなりませんね。』

——協会に対して何か要望はありますか。

吉兼『まだまだ一般に再生品に対する理解が低いと思います。協会が積極的にアピールをしていただくとうれしいですね。』



社名/大有建設株式会社 所在地/名古屋市中区金山五丁目14-2
代表者/川中 昭 設立/昭和3年 従業員/1000名
TEL/052(881)1581(内)
事業所/本社、中央研究所、3支店、4営業所、17工場、機材センター
営業種別/中間処分 取り扱い品目/建設廃材、ガラスくず及び陶磁器くず